

<自由論題>

金融危機後の欧州銀行の再生と課題

漆畑春彦(平成国際大学)

本報告では、欧州主要銀行の金融危機後の再生の過程を概観した上、危機に伴い抱えることになった短期的な経営問題、長期的な経営戦略上の課題を明らかにし、今後の展望について検討したい。金融危機に伴い大きな打撃を被った欧州主要行は、投資銀行部門の縮小とウェルスマネジメント、資産運用など安定収益部門の拡充を通じ、収益性の向上と経営リスクの低減を図ってきた。しかし、多くは収益の顕著な改善が見られず、一部には経営不安説が流れている。主要行は、金融危機から現在まで抱える問題をいかに克服し、どのような将来戦略・展望を描いているのか、また描けるのか。

ドイツ銀行を例にとると、同行は金融危機後、大規模な経営リストラを断行し株式配当も見送る状況ながら、未だ自身の経営不安説を払拭できていない。投資家の同行に対する見方は依然厳しい。同行は、短期的に急速な投資銀行拡大が生んだ訴訟への対応、永久劣後債のクーポン払いなど短期的な問題を克服する必要に迫られている。経営難に直面しているにもかかわらず、同行はなお投資銀行重視の姿勢を崩していないが、そのビジネスモデルは適切なのか、収益性を高める方策はあるのか。同行は、将来のビジネスモデルのあり方という長期的な経営課題も抱えている。

本報告では、金融危機後から現在までの欧州主要行を定性面(経営戦略など)、定量面(財務状況など)から分析し、その再生過程の概要を明らかにし、残された経営課題、特に長期的な経営課題、それを実現するための方策について述べてみたい。